

授業科目名	観光情報演習	担当教員	野津 直樹 島津 太一
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	演習		
開講年次	3年 第3クォーター		
講義内容	<p>情報処理技術の発達に伴い、従来では扱いきれなかった様々なデータがビッグデータとして価値を生み出すようになり、それらの一部はオープンデータ化されることによって、社会課題の解決や業務の付加価値向上に役立てられるようになった。</p> <p>近年では地方創生の文脈でも多様なデータの活用が始まり、これまで熟練者の勘と経験則で立案されてきたような施策が、意外なデータに基づくひらめきから生み出されたり、あるいはデータを用いて効果検証されたりするようになりつつある。</p> <p>本演習では、観光政策立案分野で活用されているデータの種類を知り、その活用法を実践的に学びながら、データに基づく地域観光施策の提案にチャレンジする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本政府がオンライン公開する統計情報サイトを知り、自ら操作できる ・ 公開された観光統計情報を分析し、地域の観光課題を論理的に発見できる ・ データに基づいて地域観光施策を提案し、効果的にプレゼンテーションできる 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ～ビッグデータによる観光動態分析～ 2. これまでの臨地実務実習を振り返る 3. 臨地実務実習報告とデータ分析 4. DMOにおける観光情報収集とマーケティング 5. 【テーマ設定】データに基づく地域観光施策提案 6. Web アンケート結果の分析手法（クロス集計・関数の活用） 7. 国内の主要な観光統計を知る 8. インバウンド消費動向調査を読み解く 9. 世界の主要な観光統計を知る 10. 日本政府の地方創生政策とEBPM (Evidence-Based Policy Making) 11. 【発表準備】データに基づく地域観光施策提案 12. 【最終発表】データに基づく地域観光施策提案 		
事前・事後学習	授業内で紹介したデータ分析手法を活用し、自らの発見をまとめた演習課題を都度指定する期限内に提出すること。（演習課題は全5回を予定）		
テキスト	特に指定しない。資料は授業内で必要に応じて適宜配付する。		

参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準	授業中に提示する演習課題の提出（75%：各 15%×全 5 回）、最終発表（25%）により評価する。
履修上の注意 履修要件	特になし。 これまでに経験してきた臨地実習報告会等における発表内容をベースに、データに基づくプレゼンテーションスキルを向上させたい学生の履修を歓迎する。
実践的教育	観光分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	「DMO における観光情報収集とマーケティング」および「【最終発表】データに基づく地域観光施策提案」単元においてゲストスピーカーを招聘予定。